

陳舜臣 生誕100年
神戸が生んだ名探偵

神戸文学館企画展

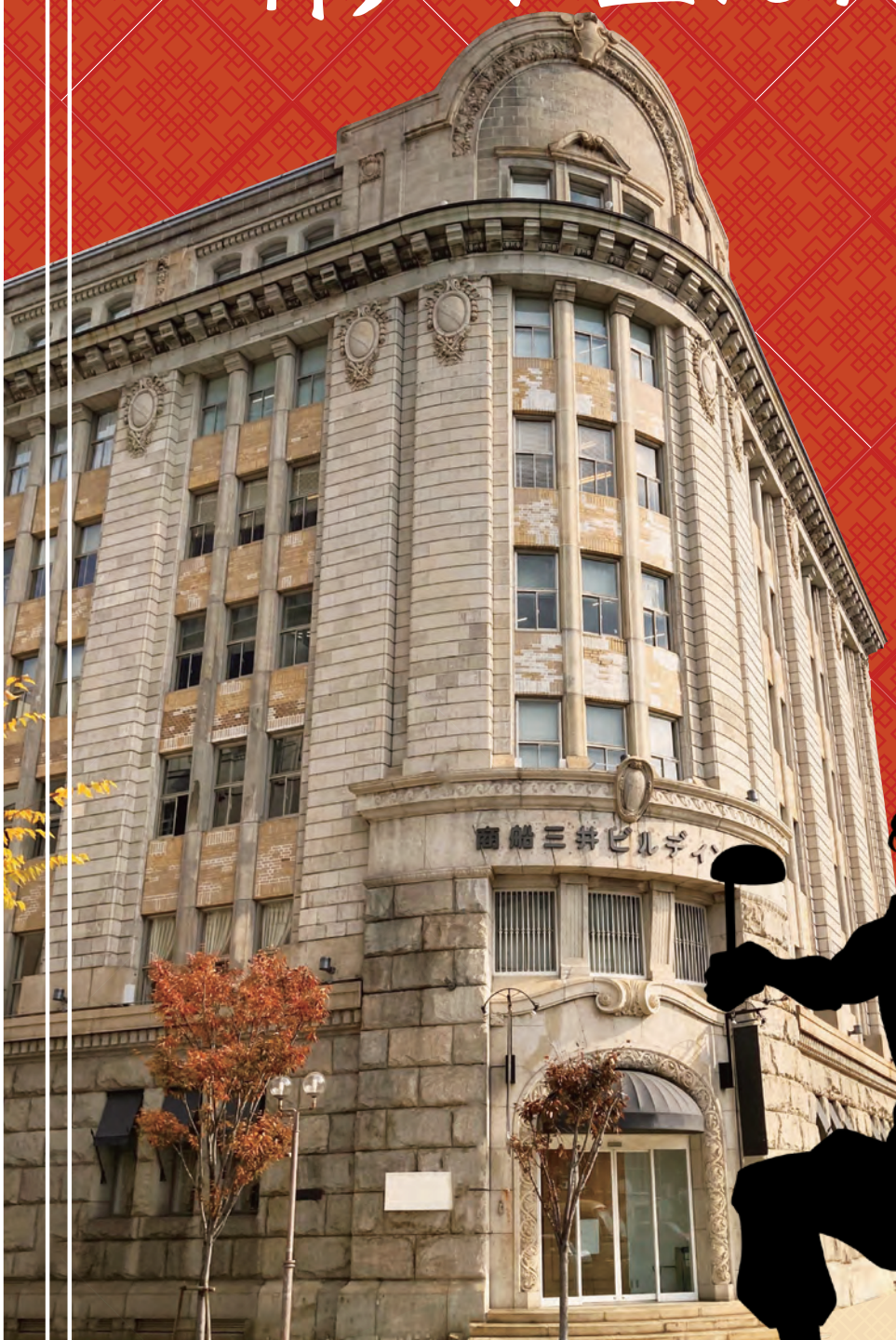
陶展文

令和六年一月二十七日(土)

～四月十四日(日)

入館料
無料

の事件簿



名前 陶展文
出身 中国・陝西省
住所 神戸市・北野町1丁目
家族 日本人の妻節子と長女羽容
学歴・職歴 日本に留学し、東京の高等学校、大学法学部を卒業。
中国に帰国後、新聞記者、国の情報関係で働き、政治運動にも関わったらしい。
再来日し、神戸市内で中華料理店「桃源亭」を経営。
趣味・特技 中国拳法。漢方薬の研究。中国将棋「象棋」。そして謎解き。

〒657-0838 神戸市灘区王子町3丁目1-2(王子動物園西隣) TEL・FAX 078-882-2028
【休館日】毎週水曜日(祝日の場合は翌日) 【開館時間】平日:午前10時～午後6時 土・日・祝日:午前9時～午後5時
主催:神戸文学館 協力:神戸市文書館、神戸アーカイブ写真館、陳舜臣アジア文藝館、陳立人氏、月刊 神戸っ子、
明石工業高等専門学校 水島あかね研究室、海上自衛隊潜水艦教育訓練隊、笠井亮平氏

◇◇ ご挨拶 ◇◇

中国をはじめアジアを舞台に壮大なスケールで描く歴史小説が有名な作家陳舜臣は今年2024年2月に、生誕100年を迎えます。生まれも、育ちも、最期の地も、そして作家としてスタートを切ったのも神戸でした。

その第一歩となったのは、1961年のデビュー作の推理小説『枯草の根』です。神戸を舞台に華僑の名探偵・陶展文が活躍する物語は、同年に第7回江戸川乱歩賞を受賞。その後、『青玉獅子香炉』で直木賞、『王嶺よふたび』『孔雀の道』では日本推理作家協会賞、『敦煌の旅』が大佛次郎賞、『諸葛孔明』は吉川英治文学賞など著作の多くが高い評価を得ています。

今回は、数ある陳舜臣の推理小説の中から作家としての出発点となった「名探偵・陶展文」シリーズにスポットを当てます。中華料理店の主人で、中国拳法の達人、漢方薬にも詳しいユニークなキャラクターの陶展文。主に長編4作品に描かれた神戸の街並みや時代背景などを紹介。陳舜臣が自らと同じ華僑に託した陶展文の人物像を浮かび上がらせ、日本ミステリー史を代表する神戸の名探偵を現代によみがえらせます。

陶展文の主な事件簿

—File1— 1961年

『枯草の根』

シンガポールの大富豪が、恩人で、中国人の元銀行家を訪ねて来神した直後、高利貸しの華僑の老人が殺された。被害者と黒い噂がある市会議員の甥が毒殺され、顔見知りだった元銀行家もガス中毒死を遂げる。老華僑を軸にした殺人事件の謎に陶展文が挑む。

—File2— 1962年

『三色の家』

中国大陸で戦雲が広がる昭和8年(1933年)、東京の大学を卒業し帰国を控えた陶展文は、神戸で海産物問屋を営む華僑の友人を訪れた。滞在中、友人宅で使用人が殺される。突然、来日した友人の異母兄などいわくありげな人物に囲まれながら陶展文が犯人を追い詰める。

—File3— 1962年

『割れる』

知人に頼まれ、兄を探しに神戸を訪れた香港の女性を自宅に泊めることになった陶展文。行方を捜す中、神戸のホテルで華僑が殺され、女性の兄が宿泊名簿から犯人として浮上した。現場から姿を消した兄を追う陶展文が衝撃の真実に迫る。

—File4— 1973年

『虹の舞台』

神戸・北野でインド人宝石商宅に銃弾が撃ち込まれ、主人は近くの山道で撲殺された。宝石商はインド独立の英雄チャンドラ・ボースの財宝を奪い、同胞から命を狙われていると噂される人物。インドの歴史と文化を背景に人間の深淵をのぞく陶展文の推理が冴える。



陳舜臣

推理小説家。歴史小説家。歴史著述家

1924年2月18日、神戸生まれ。神戸市立第一神港商業学校(現・神戸市立神港橋高校)を経て、大阪外国語学校(現・大阪大学外国語学部)インド語学科を卒業。戦後、神戸で家業の貿易業に従事するかたわら小説を書き始める。1961年、処女作の推理小説『枯草の根』が江戸川乱歩賞を受賞。その後、作家の道を歩み、ミステリー作品で直木賞、日本推理作家協会賞を受賞、中国やインドを舞台にした歴史小説でも多くの賞に輝く。『琉球の風』はNHKが大河ドラマ化。また11世紀ペルシャの詩人ウマル・ハイヤームが残した詩集『ルバイヤート』も翻訳、出版した。2015年1月21日、老衰のため神戸で死去。90歳。

神戸文学館

〒657-0838 神戸市灘区王子町3丁目1-2(王子動物園西隣)
【入館無料】 TEL・FAX 078-882-2028

■交通案内：阪急電鉄：王子公園駅から西へ約500m
JR：灘駅から北西へ約600m
阪神電車：岩屋駅から北西へ約800m
市バス：王子動物園前から西へ約200m

■開館時間：平日 午前10時～午後6時
土・日・祝日 午前9時～午後5時

■休館日：毎週水曜日(祝日の場合は翌日)

